

先輩職員メッセージ

いろいろな職場で活躍している先輩職員みなさんにインタビューしてみました。
ぜひこのメッセージから、「小金井市で働く面白さ」を感じてください！

◆現在の仕事内容は？

主な業務は予算の編成及び執行管理で、小金井市には約40の部署がありますが、私はそのうち7部署の担当をしております。

他には、地方債の借入償還管理等を担当しております。道路整備や学校建設等、一時的に多額の費用がかかる事業を実施する際、資金を長期にわたり借入れます。道路や公共施設等は次世代の方も利用することから、世代間の負担の公平性という観点から地方債を借入れて事業を行うことが多くあります。

◆仕事のやりがいとは？

財政課の仕事は大きなお金を扱うため、市民生活への影響も大きく、より慎重な対応が求められますが、市職員として大切なコスト意識・経営感覚を身につけることができ、スキルアップができることがやりがいです。また、自分の行った業務が市民の方の生活に大きな影響を与えていることがプレッシャーである反面、市民の方から「小金井市に住んでよかった」、「小金井市は良いまちだ」と言ってもらえると嬉しさとやりがいを感じます。

◆仕事を通じて成長したことは？

以前の配属先のまちづくり推進課では、開発業者の方との手続き等のスケジュール調整や、他部署との公共施設の整備基準・検査に関する調整等をしながら業務を進める必要があったため、調整能力を磨くことができました。また、オリパラ組織委員会では、前例のない業務をすることが多かったため、業務の進め方や最善策を考え、チームのメンバーと検討しながら進めていました。そのため、自ら考える力やチャレンジ精神は身についたと感じております。

◆小金井市を就職先に選んだ理由は？

実家が自然に囲まれた緑の多いところだったので、まちの賑わいや駅前の発展がある程度ありつつも、まちなかに緑が多くあるところが良いと思い小金井市を選びました。

他には、都内市町村の中で小金井市は職員の平均年齢が低く、若い方が多いため、働きやすそうだったことが決め手です。



Tanaka Tatsuya

田中 達也（2023年当時）

企画財政部財政課財政係 主任

一般事務

平成24年度入所

まちづくり推進課（4年）→東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（5年6か月）→職員課（6か月）
→財政課（3年目）



Tomita Emi

富田 絵実（2022年当時）

企画財政部企画政策課 課長

一般事務

平成17年度入所

総務課（4年）→介護福祉課（6年）→ごみ対策課（3年）
→財政課（1年）→子育て支援課（3年）
→自治体DX推進担当（8か月）→企画政策課（1年目）

◆現在の仕事内容は？

市の最上位計画である基本構想・基本計画の策定や、それに定める施策の推進管理、市民参加推進会議の運営、ふるさと納税、市のイメージキャラクターこきんちゃんの活用など、所管の範囲は多岐のわたります。堅いところから柔らかいところまで色々あるので、あらゆる情報にアンテナを張るように心掛けています。

◆仕事のやりがいとは？

やはり、市民の方から直接「ありがとう」を聞けることです。入庁して間もないころ、窓口や電話で、お礼の言葉や笑顔をいただいたときに、「離れて暮らす祖母も、市役所やまちで親切にしてもらえたらいいな」と、感じました。ちょっとした思いやりが循環して、誰もが暮らしやすいまちになるように、市役所が貢献できることは、たくさんあると思います。

◆仕事と育児の両立をするうえで心がけていることは？

家庭も仕事も、一人で抱えず、共有することです。

育児に関する時短や休暇への職場の理解も、相当に進んでいると思います。育児期間でない人も、家族の病気や介護、自分自身のこともありえます。ライフステージで起こることは、基本的にお互い様なので、できることはできるときに全力で、でも、できないときは率直に状況を説明して、しっかり周りに頼ることも大切だと思います。

私は、休暇の時に、どの部署でも一度は子どもを職場に連れて来るようにしていました。職場を子どもに見せることが目的ですが、職場の人に子どもの顔を見てもらうのも良いと思います。

先輩職員メッセージ



Kurosawa Yoshie

黒澤 佳枝（2021年当時）

都市整備部まちづくり推進課 課長

一般事務

平成14年度入所

保険年金課（5年）→管財課（8年）

→まちづくり推進課（7年目）

◆現在の仕事内容は？

まちづくり推進課では、まちづくり係と住宅係があり、まちづくり係では市街地再開発事業の支援や、宅地開発事業の指導など、まちづくりに関する事務を行っています。住宅係では住宅の耐震化や空き家の活用施策、公営住宅の管理など、住宅政策に関する事務を行っています。

武蔵小金井駅周辺では、駅南口で、長年に渡り事業支援を行ってきた、市街地再開発事業が遂に完了しました。新たに誕生した商業施設は、今、多くの市民で賑わいを見せています。一方北口では、令和3年に地域で市街地再開発準備組合が立ち上げられ、まさにこれから、地域と共に、まちの再生を目指して取り組みを進める時期にあります。

◆仕事のやりがいは？

民間企業から転職した理由のひとつに、今後長く働くのなら、人のためになる仕事がしたいという思いがありました。行政職員として、地域のために仕事ができることにやりがいを感じています。現在の仕事は、まちづくりに熱意を持った地域の方々や接する機会も多く、地域の方の顔の見える距離感で仕事ができることが、モチベーションにも繋がっていると感じています。

◆仕事と育児の両立をするうえで心がけていることは？

まだ小学生の子どもがいるため、夫とスケジュールを共有し、どちらかが会議や仕事で残業になるときは、もう一方が早く帰るようにし、どうしても仕事が重なるときは祖父母に前もってお願いするなど、家族で協力しながら早めに段取りを考えるようにしています。

夕方から子どもが寝るまでの時間は、宿題、食事、お風呂、明日の準備とやることが山積みで、どれも削ることができません。大人がいない訳にもいかず、自然とどうやって段取りしておくか、前もって考えるようになりました。

また、職場には自分も含め子育て中の職員も多く、いざという時のために育児・介護に関する制度を確認しておくようにしています。いろいろな制度がありますが、職員向けにハンドブックが纏められており、制度利用がしやすい環境が整っていることにも助けられています。

◆現在の仕事内容は？

財政課の主な業務は予算編成・執行管理で、様々な知識を要する業務です。課の職員6人で市役所内にある約40の部署を一人7部署程度に分けて担当し、執行管理における相談を受けたり、予算や決算における様々な数値の分析などを行っています。また、都や他市町村などからの調査事務も多く存在するため、そのような調査に回答するといった庶務の業務も自分の担当業務の一つです。

◆民間企業から転職した理由は？

前職ではIT関係の営業職として、現在とは全く異なる業界で仕事をしていました。民間企業で働く中で、営業で培ったコミュニケーション能力をいかして市民と行政のつなぎ役になりたい、自分の携わった仕事を、まちづくりを通じて目に見える形で残していきたいという思いから、市役所職員への転職を決意しました。

◆仕事のやりがいは？

財政課の仕事はミスが許される業務内容ではなく、ストレスを感じる場面も少なくありません。また、予算編成の時期にはかなり繁忙となる部署です。それでも数か月の時間をかけて、予算編成を終えたときの達成感は何物にも代えがたいものだと感じています。

また、自立した行政経営の確立が求められている今、市職員に求められているコスト意識や経営感覚等を身につけることができ、予算を通して他課の業務について学ぶ機会も多いため、日々の業務を通じて市職員としてのスキルアップにつなげられるところにもやりがいを感じています。



Takahashi Wataru

高橋 航（2020年当時）

企画財政部財政課財政係 主任

一般事務

平成22年度入所

都市計画課（5年）→コミュニティ文化課（4年）

→財政課（2年目）

先輩職員メッセージ



Takano Shuuhei
高野 修平（2019年当時）

福祉保健部地域福祉課地域福祉係 主任
一般事務

平成23年度入所

コミュニティ文化課（2年）→企画政策課（4年）
→地域福祉課（3年目）

◆現在の仕事内容は？

私は現在、社会福祉法に基づく社会福祉法人の定款変更の認可・変更届の受理を行う事務や、法令に基づく適切な法人運営がなされているかの確認を行うことを目的とした指導検査事務を行っています。また、地域福祉の担い手である民生委員・児童委員の事務局として定例会や委員会等に関する事務も行っています。どれも自分一人では進めることはできないため、庁内外の関係部署・関係機関と調整を重ねながら日々業務に励んでいます。

◆民間企業から転職した理由は？

数年間、メーカーの技術職で自動車部品などのモデルや図面の作成を主に行っており、現在の職種とは全く異なる業界で仕事をしていました。元々「人を支える仕事がしたい」という思いがあり、心のどこかにあった社会貢献をしたいという気持ちが大きくなり、多くの市民の方と接し、直に仕事の達成感を感じることができる市役所に心をひかれ、転職を決意しました。

数ある市役所の中でも、小金井市は、緑豊かな環境と文化が融合し、活気にあふれたエネルギーを感じ、決して広くはない市域であることにより、市民の方に一層近くで寄り添える環境に魅力を感じています。

◆仕事のやりがいとは？

民間企業では、競合他社との競争に勝つために自社の売上を上げることにやりがいを感じていました。それに対して市役所は、地域が発展するための最初のきっかけづくりに関わり、まちづくりに参加しているということを肌で感じることができることに、やりがいを感じています。

現在の職場では、地域の方々の相談窓口であり、地域社会において重要な役割を果たす民生委員・児童委員さんと一緒に仕事ができることに特にやりがいを感じています。

また、市役所の業務は様々な分野の経験ができるため、新しい仕事に挑戦できるという魅力があると感じています。実際、異動1年目である現在は、新しい発見の連続で充実した毎日を過ごしております。

◆現在の仕事内容は？

業務の内容は多岐に渡っています。市制施行60周年記念事業、大学との連携、市民参加推進会議の運営、近隣市との行政連絡協議会、子ども向けイベントの実施や小金井市イメージキャラクターこきんちゃんの担当もしています。現在は先輩とチームを組み、お互いコミュニケーションを図りながら、担当業務の推進に取り組んでいます。

◆仕事のやりがいとは？

関係する多くの人と連携し、施策を実現できることにやりがいを感じています。現在担当している業務は規模が大きいものもあり、一人の力ではどうにもならないことも多いです。市民・事業者・他の部署の職員など多くの人と力を合わせ、業務を完了したときには喜びを感じられます。

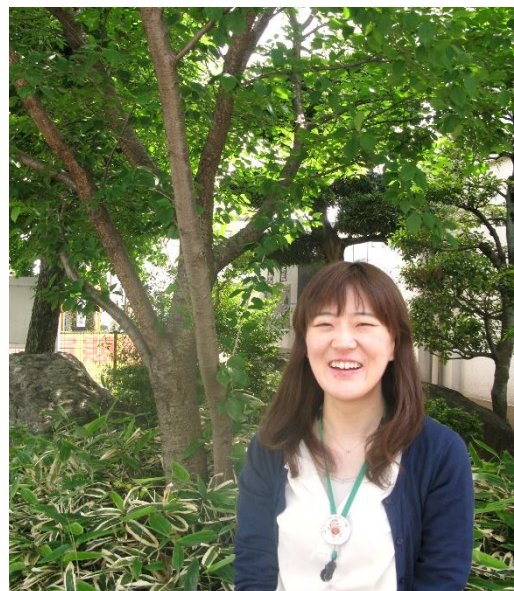
◆仕事を通じて成長したことは？

相手にわかりやすく説明する力がつきました。介護福祉課のときには、介護サービスを必要としている方や、そのご家族の方と直接やりとりしていました。様々な事情を抱えて市役所の窓口にいるので、その方の現状を把握したうえで、相手にとって必要な情報を必要なタイミングで説明することが大切だと感じていました。

また、企画政策課では段取りの重要性を感じています。物事を進めるには順番があるので、逆算して準備するように心がけています。

◆小金井市を就職先に選んだ理由は？

もともと地元に住んでいたこともありましたが、通学で都心に通っていた時に、小金井に帰ってくるとホッとしていました。都心へのアクセスの良さと緑豊かな環境の良さを併せ持っており、直接市民と関われる小金井市で働きたいと考え就職先を選びました。



Saito Akiko
齋藤 彬子（2018年当時）

企画財政部企画政策課企画政策係 主事
一般事務

平成24年度入所

介護福祉課（4年）→企画政策課（3年目）

先輩職員メッセージ



Kawasaki Yuusuke

川崎 祐介（2018年当時）

都市整備部道路管理課工事係 主任

土木技術

平成26年度入所

道路管理課（5年目）

◆現在の仕事内容は？

現在、道路の拡幅整備に伴う調査・積算・設計、橋梁の長寿命化における点検・修繕、街路樹の管理、道路の補修整備等の業務に従事しています。

道路管理課の業務は、生活に欠かすことのできない道路の安全を支える重要な役割を担っています。生活の基盤を預かることの責任の大きさを感じながら、地域の方々が安全・安心に生活できるよう、業務に取り組んでいます。

◆仕事のやりがいとは？

道路を整備する際は、地域の方や関係機関など様々な立場の方と協議し、協力して整備を進めています。

大変な点もありますが、仕事を通しての学びも多く、様々な観点の考え方や判断力が身につきます。また、自分が積算・設計したものや、携わった仕事が形としてまちに残ることが最大の魅力であると感じています。

道路を整備した後に、市民の方から「安心して歩けるようになった。」「歩きやすくなったよ。ありがとう。」などのお言葉をいただいた時は、大きな達成感とやりがいを感じます。

◆仕事を通じて成長したことは？

道路の事業においては、突発的な問題が多々発生します。工程どおりに事業を進めるために、様々な関係機関等と相談や調整をして、一つずつ課題を解決していかなければなりません。

瞬間的な判断力などが必要になることもしばしばあり、大変なことも多いですが、苦労が多い分、様々な視点での物事の捉え方や、考え方が自然と身につき、瞬発力や判断力、調整力を高めることができる職場だと感じています。